

Luxman

INTEGRATED AMPLIFIER

L-509u

Owner's Manual

このたびは、ラックスマンのインテグレートッド・アンプリファイヤーL-509uをお求めいただき、誠にありがとうございます。ご使用前にこのオーナーズマニュアルをよくお読みになり、正しくお使いいただくことで本機の性能が十分に発揮され最高のグレードで音楽再生をお楽しみいただけることと思います。

なお、お読みになった後は保証書、安全上のご注意と共に大切に保管してください。

目次

使用上のご注意	1
本機の特徴	2
各部の名称と用途	4
接続方法	10
操作方法	12
L-509u BLOCK DIAGRAM	13
規格	14
アフターサービスと品質保証について	15
修理に出される前に	16

アンプの置き場所について

換気や放熱が十分行われる場所に設置してください。

とくに、直射日光の当たる場所、ストーブのすぐそばなど高温になる場所、湿気の多い場所、ホコリの多い場所などに設置すると、放熱がスムーズでも、故障の原因になることがあります。このような場所への設置は避けてください。

併用機器との接続時の注意

本機に CD/DVD プレーヤー、チューナー、レコーダーなどの入力機器を接続するときには、本機をはじめ、すべての併用機器の電源スイッチを必ず切ってください。スピーカーを破損するほどのノイズが発生したり、場合によっては故障の原因になることがあります。

本機の各入力端子に差し込むピンプラグは、しっかりと差し込んでください。アース側が浮いているとハムなどのノイズが発生し、S/N 比悪化の原因になります。

スピーカー接続時のご注意

スピーカーシステムを接続するときには、本機のスピーカー端子やスピーカーの入力端子のところで、⊕⊖ 間がショートすることのないよう十分に注意してください。ショートしたままアンプに大信号が加わると出力回路に大電流が流れ、場合によっては故障の原因になります。

電源 ON 後すぐには音は出ません

本機には出力回路を切り離すためのタイム・ミュート回路が組み込まれているため、電源 ON 後すぐには音が出ません。

このタイム・ミュート回路が解除されるまでに音量ボリュームが上がっていると、急に大きな音が出てくることになります。音量ボリュームは必ず小さく絞っておき、スピーカーから音が出はじめてから適度なレベルにセットしてください。

保護回路について

本機にはアンプやスピーカー保護のため、過電流検出、異常高温検出、DC ドリフト検出による保護回路を設けています。この保護回路が動作した場合、スピーカー端子への出力を中断するとともに、プロテクション・インジケータが点灯し、本機がミュート状態に入ったことを表示します。保護回路が動作した原因が消滅するとプロテクション・インジケータが消灯し、動作状態に復帰します。保護回路がたびたび動作するときは、弊社サービス・センターにご相談ください。

修理・調整について

修理、調整などが必要なときは、お買い上げの販売店、もしくはお近くの弊社サービス・センターへご依頼ください。

お手入れについて

お手入れは、市販のクリーニングクロスなどの柔らかい布で拭いてください。汚れがひどいときは、中性洗剤を少量含ませた柔らかい布で汚れを落とし、乾いた布で拭き取ってください。なお、ベンジン、シンナーなどの溶剤は、外観を損ねるため使用しないでください。

安全上のご注意



本機の AC アウトレットが供給できる電力は 300W までです。接続する装置の消費電力の合計が 300W を超えないようにしてください。火災の原因となります。(電熱器具、ヘアードライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また、供給電力内であっても電源を入れたときに大電流の流れる機器などは、接続しないでください。)

安全上のご注意



本機は重いので、開梱や持ち運び、設置は必ず 2 人以上で行ってください。けがの原因となることがあります。

■ **プリブロックとパワーブロックをディスクリート構成で実装した“ワンボディセパレート”構成**
L-509uは、ODNF回路バージョン2.2のプリアンプ+パワーアンプに、高精度アルティメイトボリュームを組み合わせた、性能や規模など全てセパレートアンプ指向のハイエンド・プリメインアンプです。プリアンプとパワーアンプはオペアンプを使用しないディスクリートアンプで構成されています。セパレートアンプの一体型機として設計された、まさに“ワンボディセパレート”な性能と音楽性を目指して完成しました。

■ 様々なスピーカー負荷にリニアに出力可能なドライバビリティ

L-509uは、あらゆるスピーカーとそのインピーダンス特性に柔軟に対応可能となるよう、セパレートアンプ並みのドライバビリティを実装しました。8Ω負荷時の定格出力120Wは4Ω時には240W確保され、完全な出力リニアリティを実現しています。

■ 増幅部には最新の高音質帰還回路 ODNF2.2 を採用

高次元の音楽再現を求め、信号と歪の関係を根本から見直した次世代回路ODNF (Only Distortion Negative Feedback)は、増幅回路の出力から歪成分だけを最終段へフィードバックするという革新的な帰還回路により、初期スルーレートの速さと超広帯域を実現するものです。L-509uではプリ部、パワー部ともに入力段を平行化したODNFバージョン2.2を搭載しています。

■ 高瞬発力の音質を支える強力な電源ブロック

刻一刻と変化する音楽信号に、リアルタイムに追従する電源部のパワーの源となっているのは、厚みのある音の再現性に優れたEIタイプの電源トランスです。580VAの容量と高いレギュレーションを誇るこのトランスと、吟味を重ねてカスタム製作した10,000 μ F \times 4本のコンデンサーブロックにより、L-509uの性能をボトムで支える強力な電源ブロックを構成しています。

■ 高精度真ちゅう製アルティメイト・ボリュームを搭載

銘機C-9の開発時に生まれた真ちゅう製アルティメイト・ボリューム。性能への絶大な評価を元に、以来C-8f、CL-88といった高品位なプリアンプへ採用されてきた高剛性の音量調節ユニットは、最大減衰量-120dB以下、左右の連動誤差0.5dB以内という並外れたスペックを持ち、この度プリメインアンプとしてはL-509fSEに引き続き、L-509uだけに装着が許されました。

■ 主要な電流系ラインのダイレクト接続

L-509uでは伝送経路全体のインピーダンス低減を図るため、主要な電流系接続部に、圧着方式などによるコネクタを使用しないダイレクトなスクリュー留め接続を採用。わずかな接触抵抗値が瞬時に立ち上がる音楽のダイナミズムを損なってしまうことを最大限に回避する方策を採っています。

■ 接触抵抗値の低いオーディオリレーによるファンクション直接切り替え

L-509uの各種ファンクションセレクターはオーディオ専用の高品位リレーを採用し、余計な機構や回路を介さないダイレクト駆動による操作を実現しました。音楽の瑞々しさを失わず情報を損なわないのはもちろん、リレーによる小気味の良い切り替え音も魅力のひとつです。

■ 高純度な信号伝送を実現するピールコート PCB を採用

L-509u では、基板上の信号ラインを被覆するレジストが及ぼす音への影響を隔絶するため、そのレジストを完全撤廃した新開発の金メッキ・ピールコート PCB を全オーディオ回路部に採用しています。パターンインピーダンスを低減し、レジストの持っている僅かな容量成分の影響も皆無になり、周波数劣化の少ないピュアな信号伝送を実現しました。

■ カッパーアロイ製入力端子やニッケリン処理/金メッキの AC インレット装着

全てのエネルギーの入り口たる AC インレットには、性能としての接触抵抗値はもちろん、聴感上の音質やケーブルを確実にサポートする強度など、様々な面から検証作業を実施、非磁性ニッケル処理と金メッキを施した、ハイグレードな端子を装着しました。また、LINE-1 入力には銅と同等の導電率と真鍮の硬度を併せ持つ新素材カッパーアロイ製の高性能端子を採用しています。

■ クオリティを強力に底上げするオーディオ専用パーツの数々

上位モデルのみに許されたオーディオ専用パーツ、カスタムパーツの数々の採用は、製品の音楽性を大きく向上させる重要な要素です。ラックスマンでは大容量の電源トランスや大型スピーカー端子、試聴を繰り返してカスタマイズされた抵抗やコンデンサー類など、高度な技術と感性でこだわりぬいたオリジナルのカスタムパーツ群を大量に投入しています。

■ ブラスターホワイトの本体とブルーイルミネーションによる精緻な意匠

ブラスターホワイト・カラーの本体に細かなスピン目仕上げのノブを組み合わせ、室内光の微妙な差によって大きく表情を変える、コントラストを重視した精緻な意匠を採用。ブルーのメーター・イルミネーションと相まって、ハイエンドモデルとしての存在感を主張しています。

■ アナログレコード再生に対応するフォノ専用入力やヘッドフォン出力端子を装備

根強い人気の続いているアナログレコード再生。L-509u ではお手持ちのライブラリを最新のクオリティで再生することのできる、MC カートリッジにも対応した本格的なフォノアンプ回路を搭載しています。また、高性能なヘッドフォンを接続することで、贅沢なダイレクトリスニングを楽しむことができるヘッドフォン端子も標準装備しています。

■ 視認性に優れた大型パワーメーターを装備

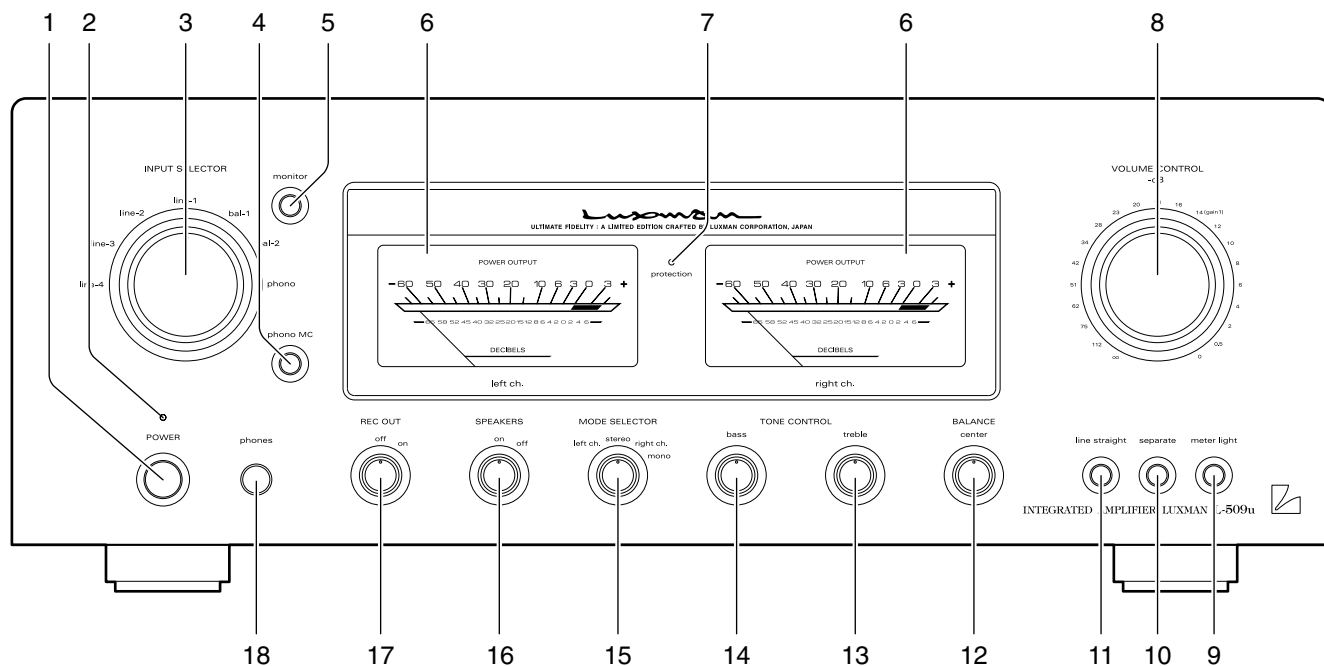
プリアンプ・シリーズの顔とも言える大型パワーメーター。表示は音楽に合わせた読み取りやすい対数圧縮方式を採用。10mm 厚の亚克力を使用し、パワーメーターをブルーのイルミネーションで淡く照らし、リスニングルームにおけるさりげない高級感を演出します。

■ 新開発されたハイエンドモデル専用電源ケーブル JPA-15000

従来の標準電源ケーブル JPA-10000 をあらゆる角度から見直し、内部の線径から構造に至るまで大きくグレードアップを果たしたハイエンドモデル専用の電源ケーブル JPA-15000 を標準添付しました。

■ システムの中核に安心してご使用いただける長期 5 年保証

L-509u は保証期間を通常の 2 年から 5 年に延長。ハイエンドモデルとしての性能に対する自信の証として、長期に渡って、ユーザーのオーディオライフをサポートします。



1. 電源スイッチ (POWER)

電源をON/OFFするスイッチです。配線、接続時には必ずスイッチをOFFにしてください。

2. パワーオン・インジケータ

電源スイッチをONにすると点灯します。

3. インプット・セレクター (INPUT SELECTOR)

CD/DVD プレーヤー、チューナーなど各入力端子に接続したプログラムソースを選択するためのスイッチです。line-1, line-2, line-3, line-4, bal-1, bal-2, phono の7つの位置があり、それぞれリアパネルの入力端子と対応しています。再生したい入力系統の位置に指標を合わせて、入力を選択します。

4. フォノ MC カートリッジ ON/OFF スイッチ (phono MC)

イコライザー・アンプ (アナログレコードを再生するときに必要なアンプ回路) のゲイン (利得) を切り替えるスイッチです。

ON : 出力電圧が低い MC (ムービング・コイル) 型カートリッジを使用するときは、このスイッチを押して“ON”にします。

MM型カートリッジを使用中に“MC”にしますと、音量が大きくなり、インピーダンスの関係で高域が出ないバランスのくずれた音になりますのでご注意ください。

OFF : 高出力電圧の MM (ムービング・マグネット) 型カートリッジのときはOFFにします。

5. モニター・スイッチ (monitor)

レコーダーのモニター再生を行うためのスイッチです。

OFF： 通常のプログラム・ソース（インプット・セレクターで選択したもの）を再生するときには、このポジションにします。

ON： レコーダーの再生を楽しむときには、このポジションにします。この場合、リアパネルのモニター端子に接続されたレコーダーの信号を再生します。録音時にこのポジションに切り換えると、そのとき録音している状況をモニターすることができます。

6. パワーメーター

左側がLチャンネル、右側がRチャンネルの出力を表示します。

メーターの表示は、デシベル表示となっています。

電源をONにすると点灯します。

7. プロテクション・インジケーター (PROTECTION)

電源をONにした後、本機が動作準備中でミュート状態にあるときは、このインジケーターが点灯し、音は出ません。ミュート状態が解除されると消灯し、動作状態になったことを表示します。また、保護回路動作中もこのインジケーターが点灯し、ミュート状態であることを表示します。保護回路が動作した原因が消滅すると、プロテクション・インジケーターが消灯し、動作状態に復帰します。

8. ボリューム・コントロール (VOLUME CONTROL)

音量を調節するためのつまみです。左側へまわし切った位置では音は出ず、右にまわしてゆくと音量は徐々に大きくなっていきます。

なお、(gain 1) の音量位置では入力信号と PRE OUT 信号が同レベルになりますので、本機の前にマルチチャンネル出力を持ったAVアンプなどを接続して、そちらで音量バランスを調節する場合に便利です。

9. パワーメーター・ライト・スイッチ (meter light)

パワーメーターの照明を消灯するときに、このスイッチをONにします。

10. セパレート・スイッチ (separate)

このスイッチは、プリ・アンプ部とメイン・アンプ部を分離します。

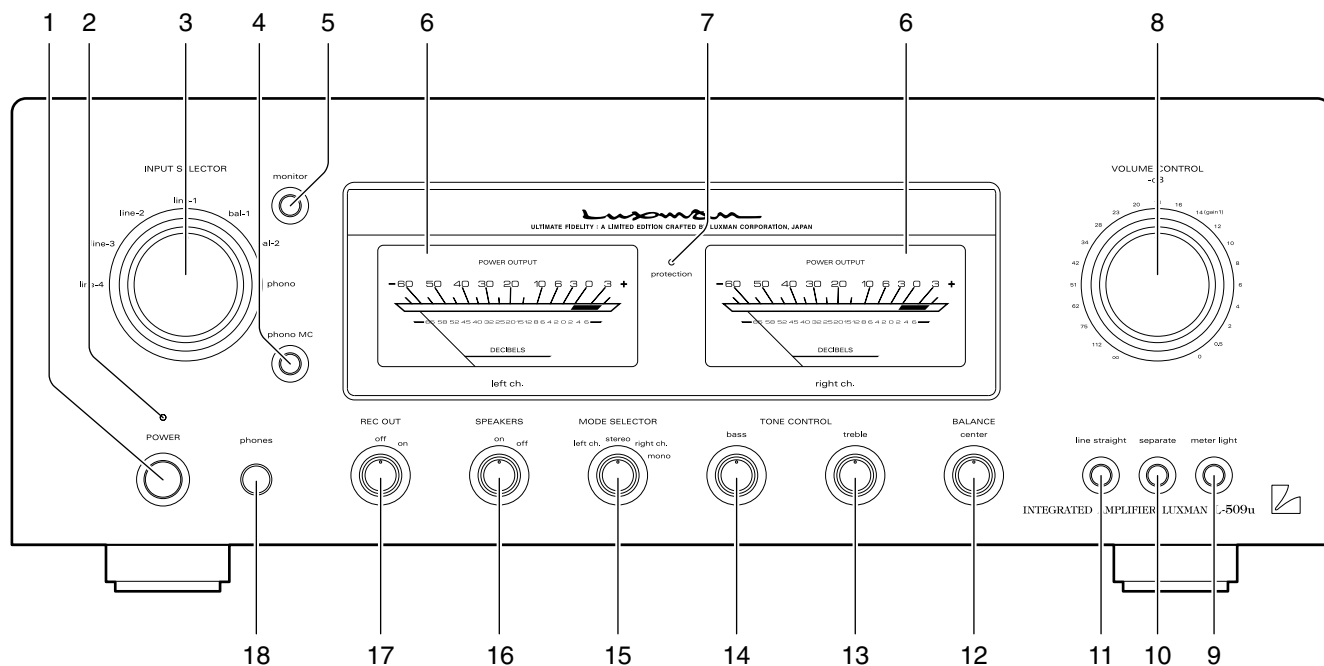
OFF： 通常のプリ・メイン・アンプとして使用する場合は、このポジションにします。

ON： 外部からの信号をリアパネルの MAIN IN 端子からメイン・アンプ部に送りこむことができます。

セパレート・スイッチがONのときは、本機のボリューム・コントロールは機能しません。音量の調節は、MAIN IN 端子に接続したコントロールアンプなどの入力機器側でおこなってください。

また、CD/DVD プレーヤーなどの音量調節の機能しないダイレクト出力を MAIN IN 端子に入力すると、常にフルパワー状態となり、スピーカーを破壊する可能性があります。

これらの入力機器は、必ず音量調節機能のあるコントロールアンプなどを中継し、音量を絞った状態で、スピーカーから音が出てから、お好みの音量になるよう調節してください。



11.ライン・ストレート・スイッチ (line straight)

バランス・コントロールやトーン・コントロール回路などをバイパス（飛び越し）することによって回路接点による音質劣化を軽減するためのスイッチです。

スイッチを押すとストレート回路が働きます。この状態で再度このスイッチを押すと、ストレート機能が解除されます。

ストレート・スイッチがONのときには、バランス、トーン・コントロール、モード・セレクターは機能しません。

12.バランス (BALANCE)

左右チャンネル間の音量バランスを調節するためのツマミです。

左にまわせば音量のバランスが左に片寄り、右にまわせば音量のバランスが右に片寄ります。

通常は中央位置で使用し、必要に応じて調節してください。

なお、ライン・ストレート・スイッチがONの状態では調節できません。

13.高域用トーン・コントロール (treble)

高音域の周波数特性を変化させるためのレベル・コントロールです。

中央位置でフラットな周波数特性になり、これより右にまわせば高音域が増強し、左にまわせば減衰します。

なお、ライン・ストレート・スイッチがONの状態では調節できません。

14.低域用トーン・コントロール (bass)

低音域の周波数特性を変化させるためのレベル・コントロールです。

中央位置でフラットな周波数特性になり、これより右にまわせば低音域が増強し、左にまわせば減衰します。

なお、ライン・ストレート・スイッチがONの状態では調節できません。

15.モード・セレクター (MODE SELECTOR)

ステレオとモノラルの切り替えスイッチです。

stereo : 通常ステレオ再生をします。

mono : 左右チャンネルの信号がミックスされます。

left ch : 左側チャンネルの信号のみを両方のスピーカーから再生します。

right ch : 右側チャンネルの信号のみを両方のスピーカーから再生します。

16.スピーカー・スイッチ (SPEAKERS)

リアパネルのスピーカー端子からの出力をON/OFFするスイッチです。

on : スピーカー端子から音がでます。

通常は、このポジションで使用します。

off : ヘッドホンだけで聴くとき、スピーカーから音を出さないときに、このポジションにします。

17.レコーディング・スイッチ (REC OUT)

リアパネルのREC OUT端子からの出力をON/OFFするスイッチです。

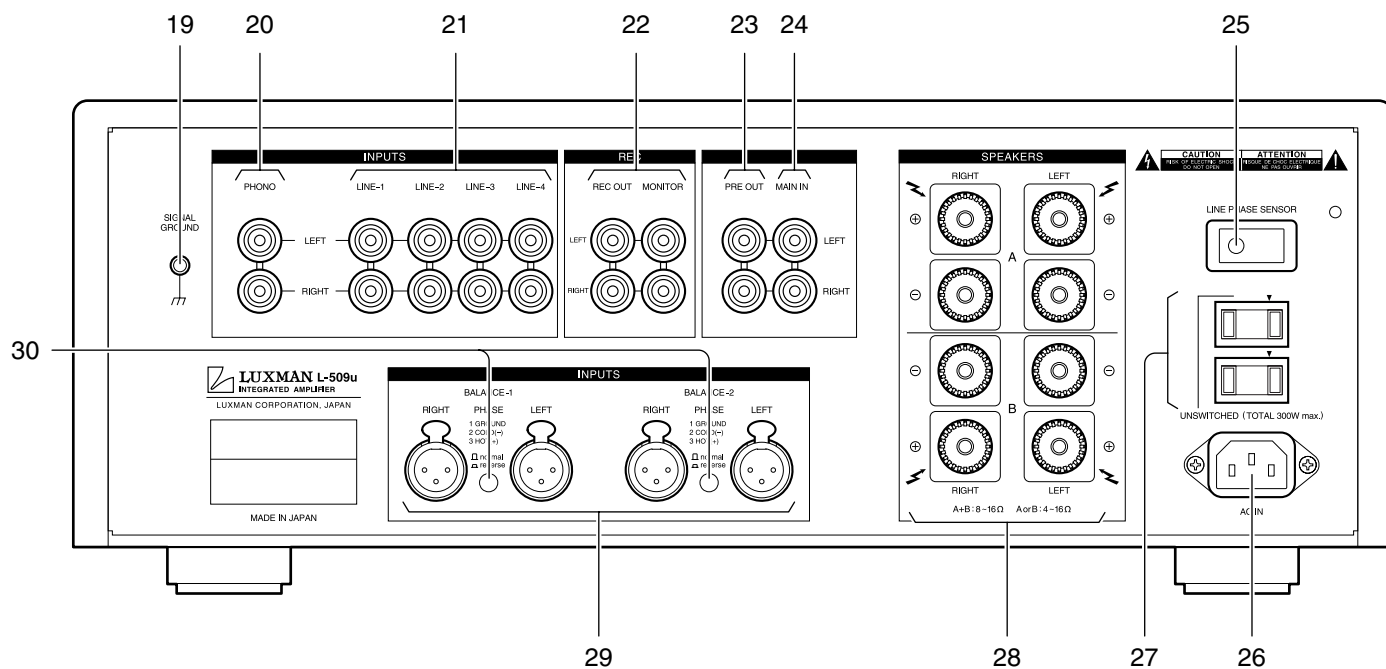
off : リアパネルのREC OUT端子に出力しない場合、このポジションにしてください。

通常、このポジションで使用します。

on : 録音するソース信号をインプット・セレクターで選び、本機のREC OUT端子に接続したレコーダーに録音用信号を送り出します。

18.フォン・ジャック (phones)

ステレオ・ヘッドホンで聴くときに、この出力ジャックにヘッドホンのプラグを差し込んでください。プラグを差し込んでもスピーカー出力端子の信号は切れません。したがって、ヘッドホンだけで聴くときは、スピーカー・スイッチを“OFF”にしてください。



19. シグナル・グラウンド (アース端子)(SIGNAL GROUND)

本機に接続する機器のアース用端子です。この端子は他の機器を接続した場合の雑音の低減をはかるためのものです。安全のためのアースではありません。

20. フォノ入力端子 (PHONO)

アナログレコード・プレーヤーを接続するための入力端子です。

21. LINE-1, LINE-2, LINE-3, LINE-4 入力端子 (アンバランス) (LINE-1, LINE-2, LINE-3, LINE-4)

CD/DVD プレーヤー、SACD プレーヤー、チューナー、ビデオ・デッキ、TV 音声などのハイレベル信号入力の端子です。入力感度は 193mV、インピーダンスは 55k Ω です。この入力端子はすべて同じ働きをします。

22. レコーダー入出力端子 (REC)

レコーダーの録音機の音声入出力を接続するための端子です。REC OUT にはレコーダーの音声入力を接続し、MONITOR にはレコーダーの音声出力を接続します。

23. プリ・アウト端子 (PRE OUT)

プリ・アンプ部の出力をとり出すときに使います。

この端子は、セパレート・スイッチの ON/OFF にかかわらず、常に出力していますので、外部のパワーアンプと組み合わせて Bi-AMP (バイ・アンプ) 接続を行なうことができます。

24. メイン・イン端子 (MAIN IN)

プリ部、メイン部を分離して、この端子からメイン・アンプ部に入力を送りこむことができます。

25.ライン・フェーズ・センサー (LINE PHASE SENSOR)

電源ケーブルをACコンセントに差し込むときに、電源の極性を確認するセンサーとインジケータです。電源ケーブルをACコンセントに差し込んだ後に指でセンサーに触れ、インジケータが消えたままであれば正常な極性です。インジケータが点灯する場合は、電源プラグのコンセントへの差し込みを逆にしてください。

電源極性のチェックは他の機器との接続前に行ってください。マンションなど、電源がフローティングされている場合は、極性が変化しないこともあります。この場合は、どちらの方向でもかまいません。

26.AC インレット (AC IN)

付属の電源ケーブルを接続します。電源はAC100V 家庭用コンセントをご使用ください。

27.AC アウトレット (UNSWITCHED)

他の機器へ電源を供給するための補助電源コンセントです。本機の電源スイッチのON/OFFにかかわらず電源を供給します。

本機のAC アウトレットが供給できる電力は300W までです。接続する機器の消費電力の合計が300W を超えないようにしてください。

また、供給電力以内であっても電源を入れたときに大電流の流れる機器などは、接続しないでください。

28.スピーカー端子 (SPEAKERS)

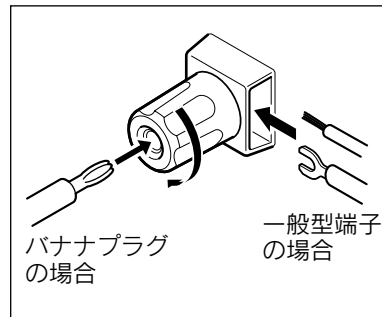
この端子にスピーカー・システムを接続します。

RIGHT 側には右スピーカーの端子を、LEFT 側には、左スピーカーの端子を、極性を合わせて接続してください。

なお、SPEAKERS A と SPEAKERS B は、パラレル接続されているため、同時に同じ信号を出力します。

通常の接続の場合は、SPEAKERS A、SPEAKERS B どちらの端子に接続してもかまいません。

バイ・ワイヤリング接続の場合は、例えば高音用を SPAKERS A に、低音用を SPEAKERS B に接続します。



29.LINE 入力端子 (バランス) (BALANCED1, BALANCED2)

キャノンタイプコネクタによるLINE レベルのバランス型入力端子です。

30.フェーズ・インバーター (PHASE INVERTER)(PHASE)

バランス入力端子使用時の位相切換スイッチです。入力機器の位相に合わせてください。

- normal ポジション… ①GROUND
②COLD
③HOT
- reverse ポジション… ①GROUND
②HOT
③COLD

接続する前に

他の機器を接続する前に、付属の電源ケーブルのジャック用（穴が3つある方）を本機の AC インレットに接続してください。

接続するときは、おもわぬノイズの発生による事故を防止するため、本機の電源スイッチと併用機器の電源をすべてオフにしてください。

電源の接続

付属の電源ケーブルを使用し、ACプラグをリスニング・ルームなどにある AC100V のコンセントに差し込んでください。このとき、ライン・フェーズ・センサーを指先で軽く触れ、インジケーターが消える方向に差し込んでください。（マンションなどのコンセントでは AC プラグを差し替えても点灯したまま、消えたままのことがあります。この場合、どちらの方向でもかまいません。）

CD プレーヤー、DVD オーディオ・プレーヤー、SACD プレーヤーの接続

CD プレーヤー、DVD オーディオ・プレーヤー、SACD プレーヤーの OUTPUT 端子（出力端子）と、本機の LINE 入力端子間を L、R 2 本のピンプラグ・ケーブルまたはバランス・ケーブルで接続してください。接続のときは、左右を間違えないようにしてください。

レコード・プレーヤーの接続

アナログレコード・プレーヤーの出力端子と本機の PHONO 端子間を L、R 2 本のピンプラグ・ケーブルで接続します。プレーヤーによってはフォノモーターやトーンアームからのアース線を本機のシグナル・グラウンド端子に接続します。本機のフォノ・イコライザー部は MM、MC カートリッジ用に対応しています。出力電圧の低い MC カートリッジなどをお使いになる場合には、フロントパネルの MC スイッチを ON にしてお使いください。

フォノ・イコライザー付きのレコード・プレーヤーまたは、単体のフォノ・イコライザーの出力は、本機の LINE 入力端子に接続してください。

録音機器の接続

1. モニター端子への接続（再生）

レコーダーに付いているライン出力端子（LINE OUT）と本機のモニター端子に L、R 間違えないようピンプラグ・ケーブルで接続します。これでモニター・スイッチを ON にするとレコーダーの再生が行えます。

本機の REC OUT 端子と録音機器の入力端子が接続された状態で、録音機器の出力端子を本機のライン入力端子に接続すると、閉ループが生じ、発振するおそれがあるので、録音機器の出力端子は必ずモニター端子へ接続してください。

2. REC OUT 端子への接続（録音）

レコーダーに録音するときは、レコーディング・スイッチを ON にして、本機の REC OUT 端子とレコーダーのライン入力端子（LINE IN）をピンプラグ・ケーブルで接続します。これでスピーカー・システムから再生される音を楽しみながら、同時に録音できます。なお、これらの録音用出力信号は、コントロール機能（ボリューム・コントロール、トーン・コントロール機能など）の影響は受けません。

PRE OUT/MAIN IN 端子の接続

本機ではプリ部のみ、またはメイン部のみを分離して使用することができます。プリ部、メイン部を分離して使用する場合は、フロントパネルのセパレート・スイッチを ON にして下さい。プリ部のみを使用するときには本機の PRE OUT 端子をほかのパワーアンプの入力端子に、メイン部のみを使用するときには、本機の MAIN IN 端子をほかのコントロールアンプの出力端子にそれぞれ接続します。

プリ・メインを分離しない場合は、フロントパネルのセパレート・スイッチを OFF の位置にしないと音が出ません。

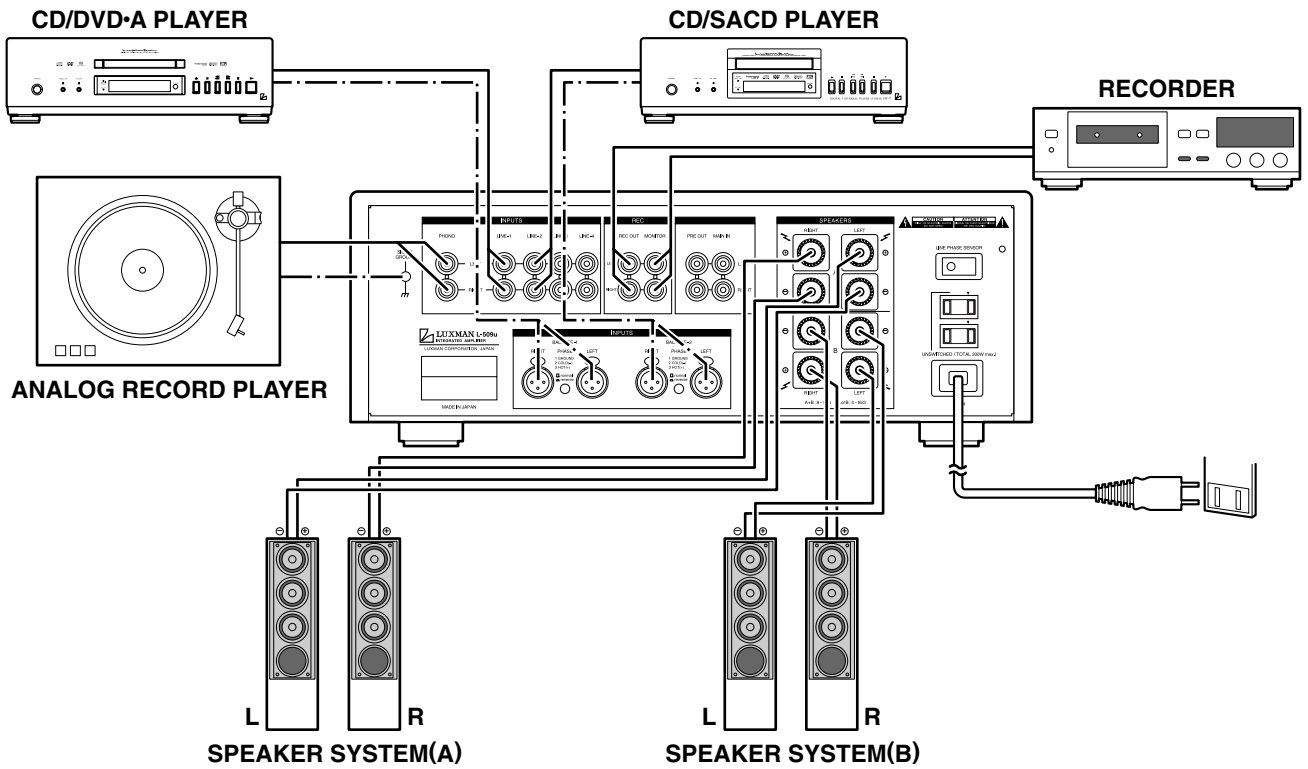
スピーカーの接続

本機の LEFT SPEAKER 端子に左チャンネル用のスピーカーを、RIGHT SPEAKER 端子に右チャンネル用のスピーカーを接続してください。スピーカー・システムの ⊕ 端子を本機のスピーカー端子の赤（⊕ 側）端子に、スピーカー・システムの ⊖ 端子を本機のスピーカー端子の黒（⊖ 側）端子に、確実に接続してください。このとき、左右スピーカー・システム的一方だけの ⊕ 端子、⊖ 端子を逆に接続すると、左右のスピーカー・システムから再生される音波の位相が逆になり、低音が減少したり、音の定位が悪くなるなどの状況が生じ、正常なステレオ再生ができなくなります。

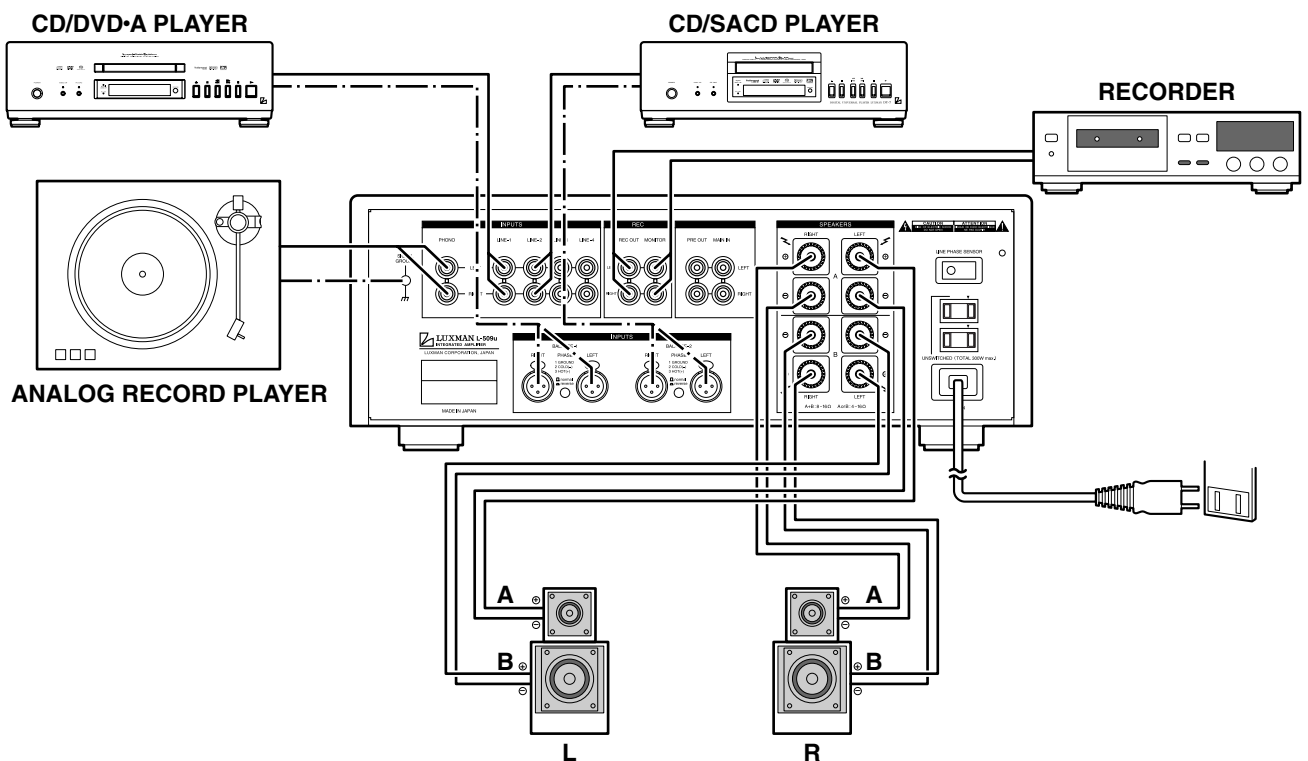
他の機器の電源ケーブルの接続

メモリー（記憶）機能を持った機器には、常に電源が供給されていることが必要です。本機の AC アウトレットからこれらの機器に電源を供給する場合は本機の電源プラグを必ず差し込んでおいてください。

一般的接続図



バイ・ワイリング接続図



操作する前に

1. 接続が確実に行われているか確認してください。(L, Rや⊕, ⊖の接続の誤りがあると正常な再生ができません。)
2. 電源ON/OFF時やインプット・セレクターを切り換えるときは、ボリューム・コントロールを最小にしてから行ってください。

再生の手順

1. ボリュームが下がっていることを確認し、パワー・スイッチを押してONにします。
2. 再生するソースをインプット・セレクターで選択します。
3. 音量をボリューム・コントロールで調節します。
4. 再生するソースに応じてトーン・コントロール、ライン・ストレート・スイッチ、バランス・コントロールを操作します。

ライン・ストレート・スイッチの操作

インプット・セレクターで選んだソースの純度を高めるため、最短の信号経路で再生するとき使用します。このスイッチがONのときは、BALANCE, TONE CONTROL, MODEはバイパスされます。

トーン・コントロール機能の操作

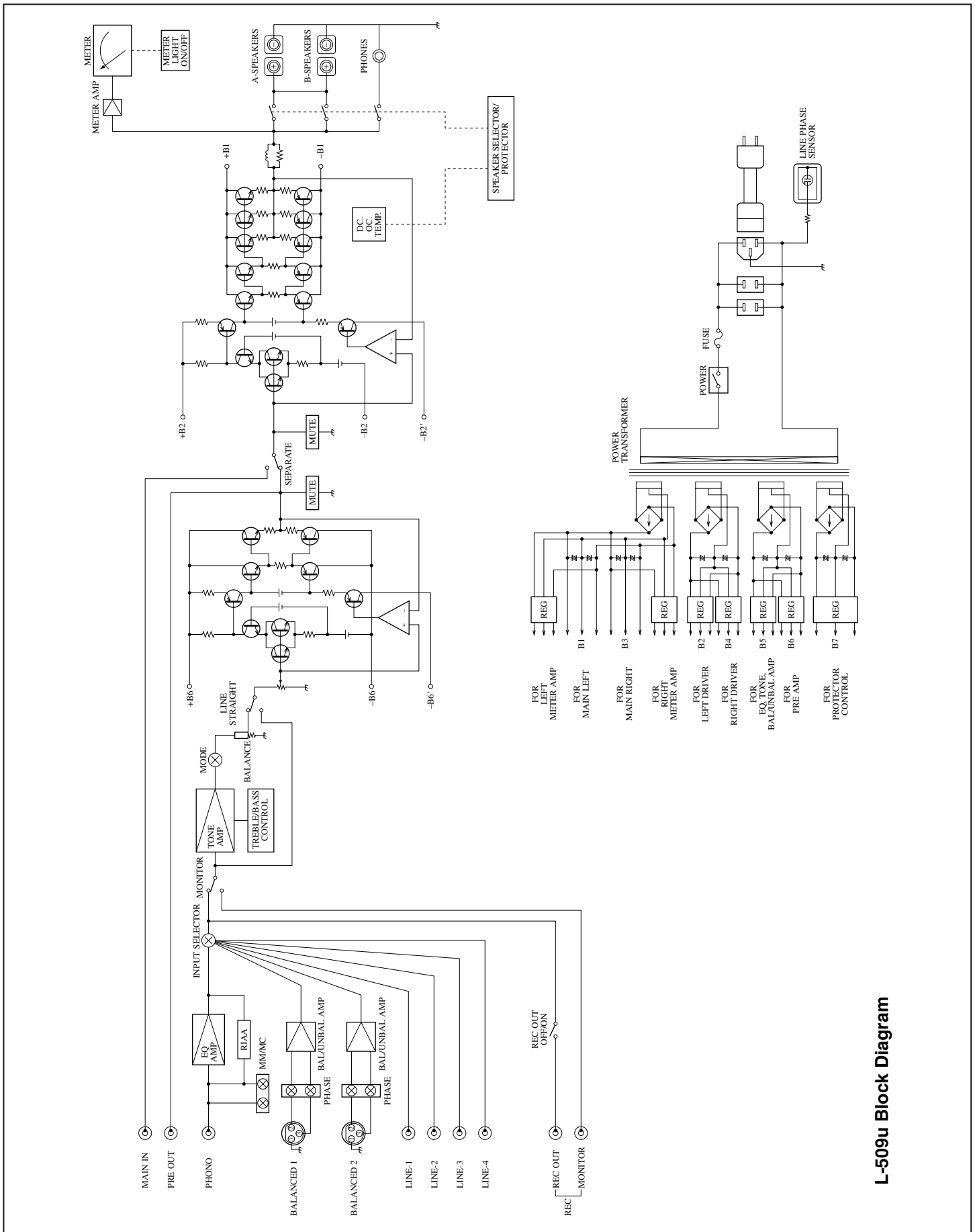
本機のトーン・コントロール機能には、低域用レベル・コントロールと高域用レベル・コントロールがあります。低域用レベル・コントロールは、300Hz以下の低音域を変化させるものです。中央位置でフラットな周波数特性となるように設計されており、この位置より右にまわすと低音域が増強し、左にまわせば減衰します。高域用レベル・コントロールは、3kHz以上の高音域を変化させるものです。低域用レベル・コントロールと同様に、中央位置でフラット、右にまわすと高音域が増強し、左にまわすと減衰します。なお、低域用レベル・コントロール、高域用レベル・コントロールはいずれも左右チャンネルが連動して働きます。

ライン・ストレート・スイッチがONのとき、このトーン・コントロールは働きません。

バランス・コントロールの操作

左右チャンネル間の音量バランスを調節することができます。左右チャンネル間の音量バランスの調節が不要なときは、中央位置で使用します。

ライン・ストレート・スイッチがONのとき、このバランス・コントロールは働きません。



L-509u Block Diagram

規 格

連続実効出力	120W + 120W (8Ω) 240W + 240W (4Ω)
全高調波歪	0.003% (8Ω, 1kHz, 両 CH 同時駆動, line straight on) 0.03% (8Ω, 20 ~ 30kHz, 両 CH 同時駆動, line straight on)
入力感度/入力インピーダンス	PHONO (MM) : 2.5mV / 47kΩ PHONO (MC) : 0.3mV / 100Ω LINE : 193mV / 55kΩ MONITOR : 193mV / 55kΩ BAL. LINE : 193mV / 55kΩ MAIN-IN : 1V / 51kΩ
出力電圧	RECORDER : 193mV PRE-OUT : 1V
S / N 比	PHONO (MM) : 91dB 以上 (IHF-A 補正, 5mV 入力, line straight on) PHONO (MC) : 75dB 以上 (IHF-A 補正, 0.5mV 入力, line straight on) LINE : 107dB 以上 (IHF-A 補正, 入力ショート, line straight on)
周波数特性	PHONO (MM) : 20Hz ~ 20,000Hz (±0.5dB, line straight on) PHONO (MC) : 20Hz ~ 20,000Hz (±0.5dB, line straight on) LINE : 20Hz ~ 100,000Hz (-3dB 以内, line straight on)
トーン・コントロール	最大変化量 BASS : ±10dB at 100Hz TREBLE: ±10dB at 10kHz
付属装置	<ul style="list-style-type: none"> •電源スイッチ •インプット・セレクター •モニター・スイッチ •フォノ MC スイッチ •レコーディング・スイッチ •スピーカー・スイッチ •モード・セレクター •トーン・コントロール •バランス・コントロール •ボリューム・コントロール •セパレート・スイッチ •AC アウトレット (UNSWITCHED:2 個 TOTAL 300W max.) •ライン・ストレート・スイッチ •メーター・ライト・スイッチ •フォン・ジャック •パワーオン・インジケーター •プロテクション・インジケーター •シグナル・グラウンド •コアキシャル入出力端子 •バランス入力端子 •スピーカー出力端子 •ライン・フェーズ・センサー •AC インレット
付属品	専用電源ケーブル (JPA-15000) 取扱説明書, 安全上のご注意
電源電圧	AC 100V (50Hz/60Hz)
消費電力	330W (電気用品安全法の規定による) 85W (無入力時)
最大外形寸法	467 (幅) × 179 (高さ) × 428 (奥行き) mm
重量	27.5kg (本体)

※規格および外観は予告なく変更することがあります。

ラックスマンのオーディオ製品には、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで、数多くの厳しいチェックを施し、万全の品質管理を期していますが、万一本機が故障したときは弊社サービス・センターまたはお求めの専門店までご連絡ください。状況に応じた出張修理または持ち込み修理をさせていただきます。なお、遠隔地の場合は修理品のご送付をお願いすることもあります。ご容赦ください。

本機の保証期間は購入日より起算して5年間です。この期間中に発生した自然故障は一切弊社の責任において無料修理させていただきます。保証登録書は、本機のパッキングケース内に入っていますので、お買い上げ販売店で、販売年月日、店名の記入捺印を受けた上、弊社に送付してください。保証期間内の修理お申しつけの節は必ず弊社発行の保証書を添えてください。保証期間外、保証登録書がない場合の修理については実費でお引き受けします。

ラックスマン株式会社

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜1-3-1

AG00987C32A

ご使用中に、何らかの原因で故障と間違えることがあります。修理に出される前に下記の表、および併用機器の取扱説明書をご覧のうえ、ひと通り確認してください。故障の原因がわからない場合は、お買い上げの販売店、もしくは弊社サービス・センターへお問い合わせください。なお、修理の依頼をお受けした場合は、故障でなくとも点検代、出張費などを戴くことがあります。

症 状	原 因	対 策
電源スイッチを押しても電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none"> ・電源プラグがコンセントから外れているか、確実に差し込まれていない。 ・電源プラグがACインレットから外れているか、確実に差し込まれていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電源プラグをコンセントへ確実に差し込む。 ・電源プラグをACインレットへ確実に差し込む。
音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ボリューム・コントロールが最小の位置になっている。 ・インプット・セレクターが再生するソースの位置にセットされていない。 ・接続ケーブルの接続が不完全。 ・再生機器の出力レベルが最小になっている。 ・モニター・スイッチがオンになっている。 ・セバレート・スイッチがオンになっている。 ・スピーカー・スイッチがオフになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボリューム・コントロールを右にまわして音量を調節する。 ・インプット・セレクターを再生するソースの位置にセットする。 ・接続ケーブルを確実に接続する。 ・出力レベルを調節する。 ・モニター・スイッチをオフにする。 ・セバレート・スイッチをオフにする。 ・スピーカー・スイッチをオンにする。
片側だけ音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・バランス・コントロールが片側にまわし切られている。 ・接続ケーブルの片側だけが接続されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常バランス・コントロールは、中央位置で使用する。 ・接続を確実に接続する。
ハム音（ブーン、またはジーというノイズ）が出る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ピンプラグ・ケーブルのアース側が端子に接触していない。 ・レコード・プレーヤーのアース線が接続されていない。 ・レコード・プレーヤーのカートリッジとシェル、またはシェルとトーンアームの接続、取り付けが不完全。 ・電源ケーブルと信号ケーブルが接近している。 ・他機器の電源トランスから誘導ノイズを受けている。 ・使用していないフォノ入力端子のショート・ピンが抜けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピンプラグ・ケーブルのアース側が接続するように確実に接続する。 ・レコード・プレーヤーのアース線をシグナル・グラウンド端子に接続する。 ・カートリッジ、シェル、トーンアームを確実に接続（取り付け）する。 ・電源ケーブルと信号ケーブルを離して配線する。 ・他機器から離して設置する。 ・使用しないフォノ入力端子のショート・ピンは、取り外さない。
トーン・コントロール、バランス・コントロールなどの効果が現れない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ライン・ストレート・スイッチがONになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トーン・コントロール、バランス・コントロール、モードセレクトなどを使用するときは、ライン・ストレート・スイッチをOFFにする。
パワーメーターの照明が点灯しない。	<ul style="list-style-type: none"> ・メーター・ライト・スイッチがONになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メーター・ライト・スイッチをOFFにする。

